

基調講演「運動学、解剖学で解説する姿勢動作分析と運動療法」

関西理学療法学会 会長、関西医療大学大学院 鈴木俊明

運動療法の具体的な方法を考える際に、多くのセラピストは運動学、解剖学の知識を用いる。しかし、詳細に分析できているセラピストはどのくらいいるのであろうか。

例えば、座位からの立ち上がり動作で、「身体を前に倒して、重心を前にもってくる」というような表現をすることがある。「身体を前に倒す」という運動を具体的にはどのような運動であるか、「重心を前にもってくる」は本当であるかを明確にする必要がある。今回は、寝返り、起き上がり、座位、立ち上がり、立位、立位での側方移動、歩行、そして、上肢活動をテーマにして、運動学、解剖学での分析、それに基づいた運動療法について多くの講演者に解説していただく。

健常者の正常動作を的確に知り、患者さんの動作との比較をすることで必要な機能障害を見つけることができる。この過程が円滑に進むことができれば、実施しなければいけない運動療法が分かるわけである。本講演では、私の研究室で得られた姿勢動作分析に関する研究成果を中心にお話する。ナイトセミナーにつながる話をする予定である。

我々セラピストは、このように患者の適切な姿勢動作分析ができることは重要であるが、全てを正常動作にすることが目標ではなく、実用性の問題点を解決することであることを忘れてはいけない。